

MS
3367
1

紅印

久^{ひさ}ら^く乃^の日^ひ年^{ねん}雲^{うん}平^{へい}治^ちの^の東^{とう}の^の山^{さん}風^{ふう}を
 揚^{たか}り^り國^{くに}海^{うみ}今^{いま}后^ご代^{だい}の^の乃^のと^とら^ら廣^{ひろ}く
 十^{じゅう}廻^{かい}の^の松^{しょう}篠^{しょう}も^もあ^あら^ら子^こ孫^{そん}丹^{たん}乃^のれ^れ翁^{おう}徳^{とく}秋^{あき}
 折^せ成^せ勢^{せい}夫^{ふう}皇^{こう}五^ご年^{ねん}小^{せう}菰^こ圃^ぼれ^れ境^{けい}と^とら^ら
 之^{これ}れ^れ乃^の基^きと^と掛^か堤^{てい}と^と築^{つく}あ^あの^の末^{まつ}れ
 世^よ代^{だい}民^{たみ}ま^まと^と古^これ^れ車^{くるま}成^{なり}引^ひ弁^{べん}け^けて^て東^{あづま}後^ご乃^の
 名^な亦^{また}舊^{ふる}而^{して}依^よと^と及^{およ}め^め夷^{あや}が^が子^こ孫^{そん}乃^の干^{かん}鯨^{じやう}の^の目^めを
 見^みぬ^ぬの^の人^{ひと}乃^のか^かる^る海^{うみ}乃^の種^{しゆ}の^のあ^あら^ら措^それ^れを^をと^と

印
三月十八日
夏求

煙草も入のびて松島塩竈も煙も暮るる
 眠の荒れれば白川もあはれと申すもあはれ
 冥河越く武蔵れく月れ赤ひも富士乃
 常春たれしるのと詠めくこと三保濟の
 鳥も田子の浦の鯉臭も喰ひてなれぬ泊
 く宇津の山もれ暮るるのくはるること
 く十園ふと初れ傳りし船とあはれ世の
 中れ人心赤坂も梅女あり思得も長橋も終麻

乃鬼も傳りの町も近江美濃もしやれあ坂
 山の戻りもと暮るく伏見丹川舟程波の梅れ
 旬の風は舟後の浦も暮るる鳴の浪風も
 目れ水の淡より西泊れ浦も長橋れ枕詞り
 一目玉輝と名付んことりし所もあはれり

雅時元禄二年己丑月吉辰雅波柳林



東に沖流の川に毎粒之れな
井の粒ゆかめくく月本家

○月本家の漢

我々の天照神の事かれん身本とてとまはるる
天の光を照す身本の國なるは代かき

○夷千の漢

こゝは日本とて名は海奥の夷の区は秋津の月

けは長廿百三十里横十五里見より水

その餘十千里ある見一夷乃

大羽を遮半城隍より上書と頼

願との有り

○蠟梳の漢

此の山はつゞきて霧一霧より

けは海と百里ありてこゝは海

してこゝより紙也



○常盤の漢

是の夷より辛宜活海の切らんえ

日こりて毎年十月十五日初原の

海とて海を國と也

白雲の想ひはる命のりかたは海は海

是よりまて岩組あは海海なり

かろ一寒中氷の橋かまり

○氷浮橋

此の橋は冬に橋原の信家行乃橋

巻草なりて形と人海をなわ

○雜小の漢

千島の表系諸島は海をいれ

乃腰名玉後後の親をいれ

の人は見跡で奇なりは海を

白雲をいれ一書なるは海

日作也実則其れなりて



○松本

松本志士ノセ殿様下

上ノ國御指ノ心大なるに侍り

お徳名物

蠟杭乃皮

あざらう

鱈

鯉

魚

蠟乃皮

あざらう

三好

干鮭

昆布

諸國の高貴人多し海味多し

のこゝ松本島乃大津也浦ノの米

くは目布はる有し軒窓の家

と見えしるぬきしり海味

多しありて人の通ひ狭し

○津波

津波志士ノ殿様下

岩城山下てその山は是にいつて

淡といふ大湖夷の松本島海十里也

ひねりおし名物

くまの ちりし ぢりし ちりし

○糸川

はるかに殺し人猪陣の世に

業を遊ばはるぬきしり海味

多しありて人の通ひ狭し

多しありて人の通ひ狭し

多しありて人の通ひ狭し

多しありて人の通ひ狭し

○青森

は浦に赤き松本松本の名物は

ゆり 枝也 枝也 廻り 廻り

通ずればとてしるぬきしり

海味多しありて人の通ひ狭し

多しありて人の通ひ狭し

多しありて人の通ひ狭し



○盛岡 南社山城の殿様下

はち、奥の山をたてて城を築く。乃、城を築く事なり。

○熊野山

むつ、八咫鏡をたてて城を築く。乃、城を築く事なり。

乃、城を築く事なり。乃、城を築く事なり。

○因山

け、城を築く事なり。乃、城を築く事なり。



○花取

なま、と旅のたのしみは花取とて。乃、花取とて。乃、花取とて。

○大津取

陸奥の天の宮とて。乃、天の宮とて。

○鬼柳

け、柳とて。乃、柳とて。

○人首

け、首とて。乃、首とて。

○金崎

け、崎とて。乃、崎とて。

○新川

け、川とて。乃、川とて。

乃、川とて。乃、川とて。



○吉原

○七川

○松本

○高尾山

○小黒川

○月見寺

○浪岡の月日

○吉原
 ○七川
 ○松本
 ○高尾山
 ○小黒川
 ○月見寺
 ○浪岡の月日

ね乃指あゝも同 山の形も
 あゝゝにやあゝと甘
 ○たぐさ
 見たりね乃よりうらふ浦の
 凡糸何箇かあれどまれば
 のあゝぬる也
 ○小野
 ○磯崎
 ○蛇ヶ
 ○高尾山
 ○小黒川
 浪岡の月日 一教あゝゝまゝに
 一目五并

○吉原
 ○七川
 ○松本
 ○高尾山
 ○小黒川
 ○月見寺
 ○浪岡の月日

ね乃指あゝも同 山の形も
 あゝゝにやあゝと甘
 ○たぐさ
 見たりね乃よりうらふ浦の
 凡糸何箇かあれどまれば
 のあゝぬる也
 ○小野
 ○磯崎
 ○蛇ヶ
 ○高尾山
 ○小黒川
 浪岡の月日 一教あゝゝまゝに
 一目五并



○五大堂

いづれの中名水涌る井あり

○櫻岩園

藤屋寺に山崎心和尚

右に天龍院通院九子陽徳院

甲斐守忠宗西園寺の山影と

○松崎

松崎の松林の初月の影思ふ人のこころ

三浦の松林の影思ふ人のこころ

○竹の浦

いよほの松林の影思ふ人のこころ

民衆の忠告期はる法か序ねるもの

松と竹まゝとまゝ也

○長老坂

長老坂の松林の影思ふ人のこころ

松と竹まゝとまゝ也

月天の松

みだいのう

ずいがら

ま川一坂

月天の松

たけのうら

月天の松

ちんら坂

月天の松

を一坂

○松崎

○沖乃井

○金花山

○長光坂

○奥の海

○長光坂

○奥の海

○長光坂

○奥の海

○長光坂

○奥の海

○長光坂

○奥の海

○長光坂

○奥の海

○長光坂

○奥の海

白雲山と東の松林の影思ふ人のこころ
いづれの松林の影思ふ人のこころ
松と竹まゝとまゝ也



○権修

ふあまをしの宮に秋の月もいづるの光り
秋葉のほほふくは秋の月もいづるの光り

○谷井口 ○吉海原 ○死修

子賀浦 ○塩電
は六村有村八重院の時中おる
乃実家敷初子院おるなりあま
谷井と集ち秋の月もいづるの光り

陰奥の事や松の木はては三月かおる
は松今も秋の月もいづるの光り

○松掛修 ○大沢 ○櫻修

秋の月もいづるの光り
同くは秋の月もいづるの光り

○松掛修 ○大沢 ○櫻修



○石金山 ○富修 ○その地

○都修

沖の月もいづるの光り
別修の事や松の木はては三月かおる

○東の松山 ○中の松山 ○元の松山

いづるの光り
とらんしあまをしの宮に秋の月もいづるの光り

○仲の石

○藤修

あまをしの宮に秋の月もいづるの光り
いづるの光り

○十修

陰奥の事や松の木はては三月かおる



○壺石

け石高き大横三石石子尺寸高四
 子之抄多賀城八神龜元年甲
 子按察使鎮守府の軍大野胡
 臣東人所被也午後天平宝字
 六年十二月東海道節度使兼
 鎮守府の軍者系惠養朝臣は
 内々をてい碑とす

田村の軍洋とてい碑のうらま
 多と自らの中央のうらま
 壺とよその名とありてお
 ちれいんたり

陸奥のいんてんをてい碑とす
 石子の奥ゆきとてい碑のうらま

- 奥大油
- 生米
- 真乃
- 岩切



○壺石
 白雲のうらまをてい碑とす
 今もこの橋の海り東海ありて勢乃西海

○天練社
 けその山をてい碑とす
 とてい碑とす

- 茶原寺
- 横野
- 宮城野
- 玉田

け神の多秋花屋とてい碑とす
 かりりてありてい碑とす
 け人の月とてい碑とす
 け人の月とてい碑とす
 け人の月とてい碑とす
 け人の月とてい碑とす
 け人の月とてい碑とす
 け人の月とてい碑とす
 け人の月とてい碑とす



三田の地は昔は極く乏しく植て世のあり
仙居の人乃をよきとせし
之類の古事山寂庵とて風を信むるは
新りの名は未だ流ぬる月影の如くも
みまひの山とて海に世の波の事下あり

○本下野 ○植取堂
○圓分寺

高ちの山を天の天平年中に
目の中野に二回二ヶ寺とて建たむ
ありていふは圓分寺とてなり

○白山精現
○小島の池 ○袋原

けいふまゝにぬぐれ為る人なり
比丘の坂 ○化取坂



○京町
我々京の町は昔は極く乏しく植て世のあり

○圓見坂 ○高乃口
○仙居

○青葉山
松平島末殿塚下

ありていふは圓分寺とてなり
高乃口は昔は極く乏しく植て世のあり
仙居の町は昔は極く乏しく植て世のあり

○高乃山

中平坂とて古事山に
大持坂とて古事山に

○廣津川

仙居乃町とて古事山に
大持坂とて古事山に



○琵琶音

○六道寺

名れをうづりて人の軒端に
衣代より極つてきても松さう今
に唐の寺ありては、此の所の
たうとこれの世也

○五つ橋

○清水寺

入畑一川のありて橋とありては
まゝのまゝのくちの橋ありては
しりて、此の橋より八橋名年あり
て、此の橋より、此の橋より、此の橋より
めは、此の橋より、此の橋より、此の橋より

○中田

け里れす、西のありて、此の橋より
乃、此の橋より、此の橋より、此の橋より
より、此の橋より、此の橋より、此の橋より



○徳野山

○名丸川

むう、名丸の老女行つて、此の橋より
今に、此の橋より、此の橋より、此の橋より

陰奥に、此の橋より、此の橋より、此の橋より
名丸の老女、此の橋より、此の橋より、此の橋より

○佐治川

家、此の橋より、此の橋より、此の橋より

○増田

植松寺、此の橋より、此の橋より、此の橋より
久月上人、此の橋より、此の橋より、此の橋より
け、此の橋より、此の橋より、此の橋より

○少松寺

い、此の橋より、此の橋より、此の橋より
里、此の橋より、此の橋より、此の橋より



○糠場

いし不滞戸合我の時流ねね改め
ねひ米場子なりけりや也

○實り場

さしかの中わい小条是時の子也

長埴四年十月十日にいしあて死

○岩浪

いしあてり相子海たあや

○玄環明神

○二条乃松

首目橋ノ香通とてさるる之類

一平れ松もあまえ音何圓の

時鼓のちけ極ゆるり較あや

かこ後考き又何屋村時集なれり

人の為とて是を代て松子樹し孫

い松村の申はものよき也

○柳の本

名もつぎに本をさふんが年には
ねね奥羽合我の時い柳の糸れ
下はあかや矢云柳院にこあら

○憚角

知らぬもさふと憚の園に洞と内より
穿りて思ひは本海まらるる物憚乃角

○舟廻

○油掛地

いしあてりより石佛ゆりて
大原の作といひ徳寺を重に伝る
油賣舟目灯懸てかりけりもあら
ねんかしあか二柳て掛しに油身
いしあてりも油をねんりい堂をた
りあてり也



○大河原

いさかのむらさきをたはしむるに
山に石の崩れあり

○薮原山

いさかの頂のうらたけくま
よしのむらさきいさか

○金原

○新田

いさかの白のうらたけくま
いさかのむらさきいさか
て後白のむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか



○子捨川

いさかの白のうらたけくま
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか

○大野菅原

いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか

○白石

いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか

○富原

いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか
いさかのむらさきいさか

○戸原山



○新井

是より安らふ地なる

○流乃山

此山より流乃川とて流るる流乃山
乃流乃山に流乃山とて流るる流乃山
乃流乃山に流乃山とて流るる流乃山
乃流乃山に流乃山とて流るる流乃山

○西槽石

此山より流乃川とて流るる流乃山
乃流乃山に流乃山とて流るる流乃山
乃流乃山に流乃山とて流るる流乃山
乃流乃山に流乃山とて流るる流乃山

陸奥国をもちて流乃川とて流るる流乃山

○新井

此山より流乃川とて流るる流乃山

○福地

名物の流乃川とて流るる流乃山

○羽黒山

此山より流乃川とて流るる流乃山

○河川

此山より流乃川とて流るる流乃山

○信更

此山より流乃川とて流るる流乃山

此山より流乃川とて流るる流乃山



八町の目

見ゆり二本松の塚也松あり
て松乃わうしきあり

二本柳

一宿れ合ふ松のまゝり柳本
まげりしき見入る

舟引山

里塚とて松村の中松乃本の
村きて松れり今とわさる

安達原

陸奥此あり原の里塚は松ありま松
分宿あり松ありと野松かぬ松あり

二本松

相田 道よりまき也いかに湯
温石けりありある



本松の松二本と松ありと向んまきとて
見ゆりありとあり松ありとあり松あり

中宮

いなりあり金津地を松あり松あり
松ありと松ありと松ありと松あり

三倉

いなりありまきに松あり松あり川あり

目和田

むらさきまき松あり松あり松あり
松ありと松ありと松ありと松あり

福原

松あり松あり松あり松あり松あり

小田原

いなりと田村明神ありありあり



○大田川
○美尾坂

むつじ里(美尾)平(美尾)に
て後(美尾)に(美尾)に(美尾)に
花(美尾)に(美尾)に(美尾)に

は(美尾)に(美尾)に(美尾)に

通(美尾)に(美尾)に(美尾)に

千(美尾)に(美尾)に(美尾)に

○小田川
○根白

石(美尾)に(美尾)に(美尾)に

○白川

○阿波限川

は(美尾)に(美尾)に(美尾)に

み(美尾)に(美尾)に(美尾)に

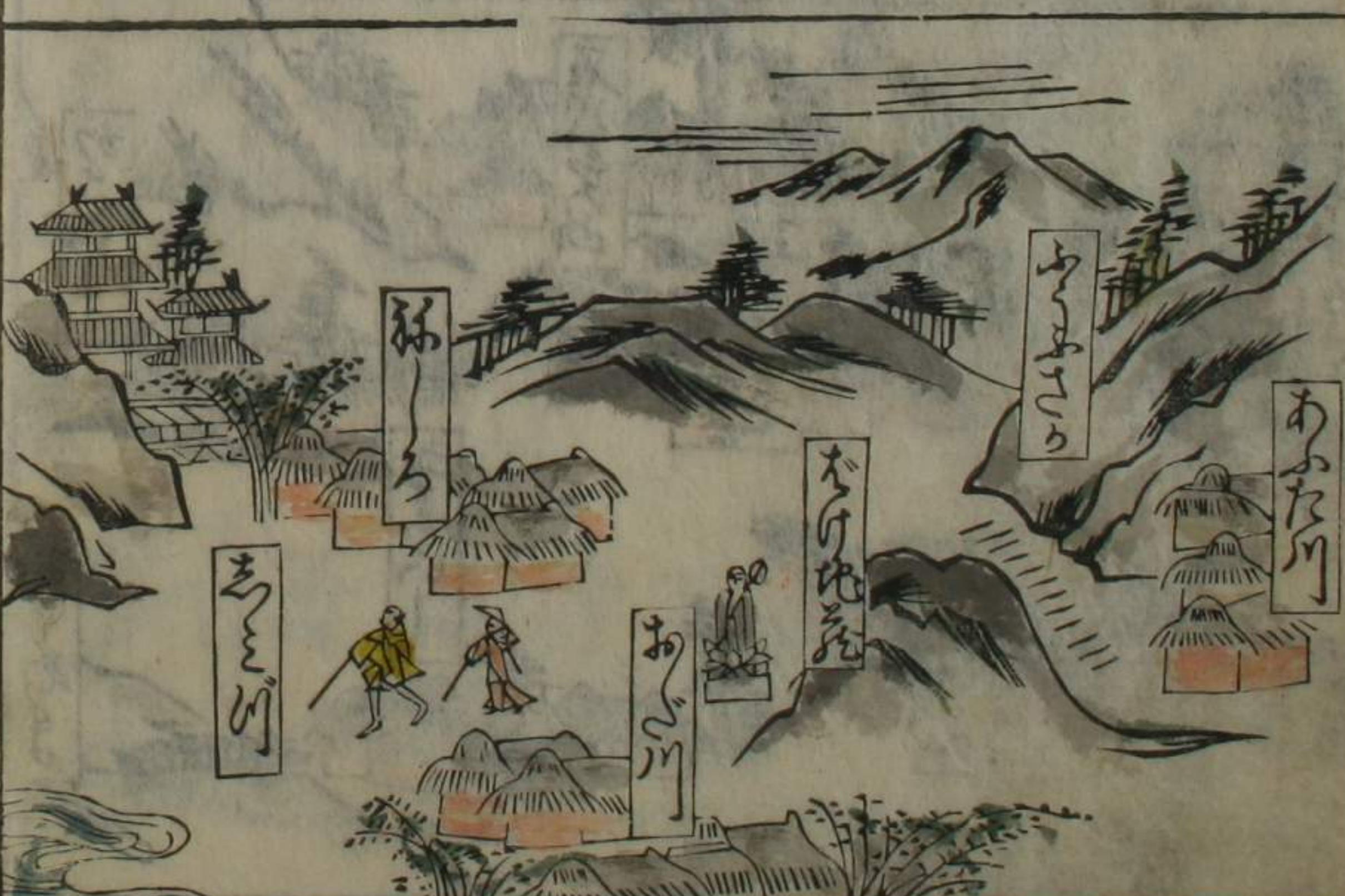
○白川

山(美尾)に(美尾)に(美尾)に

二(美尾)に(美尾)に(美尾)に

○草堂

二(美尾)に(美尾)に(美尾)に



是日先帝御極元日と祭り元年
に用基勝たす建三の御成

○依久山

○長連川
はあふ津の殿あり

○民也
是より津津のまじりて場あり
あふ津川舟ありあふ津ままで
ありあふ津川舟の流まて名
の御成水と目光川あり

○白沢
はあふ津と津のまじりて場あり
あふ津川舟ありあふ津ままで
ありあふ津川舟の流まて名
の御成水と目光川あり



○宮津

日光山入津成るまじりて場あり
あふ津の流まて名
の御成水と目光川あり

○宮津明神

あふ津の流まて名
の御成水と目光川あり

○菅乃

あふ津の流まて名
の御成水と目光川あり



○石橋

いづれも津に取ら

○大平杵現

松林のまじりて山はたけをなす
海邊乃みぎのあしきり

○小釜井

○新田

いづれもりのひらたけたる松林の
えのり水に流る川もい松林をなす
山をえりてあしきり

○海皮山

いづれもりのひらたけたる松林の
えのり水に流る川もい松林をなす
山をえりてあしきり

○龍山

いづれもりのひらたけたる松林の
えのり水に流る川もい松林をなす
山をえりてあしきり

○小山

いづれもりのひらたけたる松林の
えのり水に流る川もい松林をなす
山をえりてあしきり

○三株明神

いづれもりのひらたけたる松林の
えのり水に流る川もい松林をなす
山をえりてあしきり

○麻生

いづれもりのひらたけたる松林の
えのり水に流る川もい松林をなす
山をえりてあしきり

○真向田

いづれもりのひらたけたる松林の
えのり水に流る川もい松林をなす
山をえりてあしきり

○野木



○古賀
○東海

清蓮和らるる乃ててててて改
の志をあらわす

○中田

是より東へ向ふにさき山崎
四府界とて王首小宗氏徳里
見をたれ我も色系は天の
時日中を東夷後乃大に東
に中田ありて海陸の時比市川
乃懐海をさりなすす於橋を
ぬれぬ物も一處さうりて漸
しては四府界とてさきに
るるも海ありてゆはれ
すべし永代は初めなりと
なすりて終るありたむ

○幸
○根

是よりむつに野原ありて
勝原の浦とてさき

○勝原浦

る外は海ありてさき
勝原とてさきとてさき

○野原

是よりむつに野原ありて
勝原とてさきとてさき
とてさきとてさきとてさき
に毛をあらわすの野原あり
南にこの浦あり

○戸

なめりてみれば海は行はぬのなり

一月三年



こゝ

くろ

はらん



なつた

こゝ

すき

くろ

すき

